

放課後等デイサービス「ぼしえっと」支援プログラム

1. 支援の目的

・よりよく生きたい！大きく育ちたい！！そんな気持ちを育みます・

「ぼしえっと」では、“遊び・生活・仲間集団”に基本に日々の活動の中で、個々の発達保障を行い、自分づくりの支援をしていきます。

単にできることを増やすのではなく、大きくなりたい、よりよくありたいという気持ちの土台作りから行い、子ども自身が身につけたいと願いが発端となる“本当のできる力”を身につけて行くことを目標としています。

さらに、日々共に過ごす仲間集団の中で、ぶつかり、共同する生活を通して、自分を知り、他者を知ることにつなげ、子ども自身の仲間づくりも行っています。その仲間集団に支えられ、良いときも悪い時もありのままの自分を受け止めてもらい、本来の自己肯定感を育み、自ら考え、判断して行動につなげる社会性を育てていきます。

2. 具体的な支援内容

基本理念: 本人の困りごと、生きづらさを少しでも緩やかなものに。

活動に子どもを合わせず、子どもに必要な活動を。

①健康・生活

食えること、排泄すること、着替えること、季節に応じた着衣等の日常生活については、本人の発達段階と生活環境を把握し、繰り返しの支援での本人ができる形での定着を図ります。

②感覚・運動

歩くことを基本とし、身体づくり行います。遊びと生活の中で自然と身に着く各器官の呼応関係や協働、体感覚の育ちを大事にしていきます。感覚の過敏性等については、個々の状況の把握と理解を通して背景を捉え、活動を豊かにすることや、環境づくりを行い、緩和もしくは、日常生活に困難をきたさないような解決策を見出していきます。

③認知・行動

個々の理解できる範囲、理解の方法を把握し、個別に生活の中で支援を本人の困難さや生きづらさが軽減されるようにします。

④言語・コミュニケーション

言葉がある場合もそうでない場合も、どちらも、本人の伝えたいことが表出されるよう、本人の伝えたいことの把握から始まり、どのような内容にも共感的に対応し、伝える・伝わったや、わかってもらえたという経験を積み重ねることで、自分のことを伝えられる子になります。

⑤人間関係・社会性

④の支援の流れで、自分からの発信、相手の意図の汲み取り、調整していく力を仲間集団の力を借り、育てていきます。

社会性においては、外からのルールではなく、上手く行った上手く行かなかったの多

様な経験を通して、個々の中に良し悪しの判断基準を持ち、自分自身で行動を調整する力を育みます。

⑥年齢に応じた支援

学齢が低い子においては、個々の自分発見、自分づくりや生活スキルの定着に重きを置き、学齢が上がるにつれ、自分の状態や要望を他者に伝えることに重きを置き支援を年齢に応じて変化させていきます。

異年齢の仲間集団を活かすため、個々が大事にされ育つ姿や、大きくなる姿を子どもたちが当たり前と感じとれる集団作りも大事にします。

3. 基本的な日々の流れ

【学校通常下校】

下校→はじめての会→おやつ・おやつづくり→今日の活動・自由時間→片付け

【学校休校日】

登室→さんぽ→はじめての会→お昼づくり→公園等→今日の活動
→おやつ・おやつづくり→自由時間→片付け